

令和 3 年度事業報告

(令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人映像産業振興機構

目次

1.	事業の経過	4
2.	主な事業の実施状況	4
(1)	人材育成事業	4
①	短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成 (ndjc2021)	文化庁..4
②	令和3年度映画スタッフ育成事業	文化庁..5
③	映画・映像人材育成事業	京都府..6
④	令和3年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 キュレーター等海外派遣プログラム	公益財団法人画像情報教育振興協会...6
⑤	令和3年度 コンテンツ海外展開促進事業（映像制作現場における効果的な人材育成の実証に関する調査）	経済産業省...7
⑥	令和3年度日本映画海外展開強化事業	文化庁..8
(2)	内外の市場整備事業	8
①	令和3年度コンテンツ海外展開促進事業（コンテンツ関連ビジネスマッチング事業）	経済産業省 ...8
②	マンガ家を含めたクリエイター志望者支援事業（京まふ2021）	京都市 ..18
③	令和2年度コンテンツグローバル需要創出促進・基盤強化事業費補助金	経済産業省 ...18
④	コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金（J-LODlive）	経済産業省 ...19
⑤	「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金」（三次補正）(J-LODlive2)	経済産業省...19
⑥	コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金(J-LODr3)	経済産業省..20
⑦	コンテンツ活用促進事業	東京都 ...21
⑧	令和3年度 メディア芸術海外展開事業	文化庁 ...21
⑨	アーカイブ中核拠点形成モデル事業	文化庁 ...22
⑩	全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査	文化庁 ...23

⑪ ARTS for the future! (コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)	文化庁 ... 23
⑫ コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業	文化庁 ... 24
⑬ アフターコロナに向けた外国映像作品ロケーション誘致に関する実証調査 (ロケ誘致 2021)	内閣府 ... 25
⑭ 外国映像作品ロケーション誘致に係る経済効果フォローアップ検証調査	内閣府 ... 25
⑮ 大型映像作品ロケーション誘致の効果検証調査	内閣府 ... 25
(3) 自主事業	26
① VIPO アカデミー	26
② セミナー・ワークショップ事業(有料)	27
③ AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業	30
④ 交流促進事業	30
⑤ 情報サービス事業	31
⑥ フェスティバルスコープ事業	32
⑦ VIPO FilmLab 事業	32
⑧ IKURA 事業	32
(4) 組織運営	33
① 会員の状況	33
② 通常総会、理事会、幹事理事会	33
(5) 広報活動	34
① 「VIPO 年間活動報告 2020」の発行	34
② ホームページの運営	35
③ VIPO 会員とコンテンツ事業者へのメール配信	35
④ 事業活動情報の記事露出	36

1. 事業の経過

令和3年度の通常総会（6月29日開催）でご承認いただきました、本年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成事業、内外の市場開拓等に関する事業を実施致しました。各事業の状況につきましては、次の通りであります。

2. 主な事業の実施状況

（1）人材育成事業

① 短編映画製作等を通じた若手映画作家人材育成（ndjc2021） 文化庁
事業として16年目、35歳までの年齢制限を設けて3年目となる本年度は、25団体より49名の推薦をいただき、応募者数の記録を更新しました。一次選考にて選出された15名が7月14日～25日のワークショップに参加。最終選考の後、4名の作家が製作実地研修に進みました。脚本指導講師のもとで脚本開発に取り組んだ後、プロのスタッフ・キャストと共に短編映画作品を完成させました。完成作品は映画業界関係者に向けた合評上映会（東京・京都・大阪・名古屋）、一般に向けた劇場公開（東京・大阪・名古屋）にて多くの方にご覧いただき、講評等を監督にフィードバックしました。

また、フォローアップとして、本事業15年間にて完成した短編全73作品に対しては、継続して国内外の映画祭や劇場上映の機会を提供しました。

特に、昨年度完成した3作品については、映連4社の各社にて上映会を実施し、現役プロデューサーの皆さまから監督に直接ご意見をいただく機会をつくりました。

引き続きコロナ禍での運営となりましたが、全てのプログラムが滞りなく進行しました。

VIPOの自主事業として、2006年度から2019年度に完成した69作品をNETFLIXにて配信開始しました。これにより、更に多くの方にndjc作品に触れていただく機会がうまれました。国内のみの配信、配信期間は3年間（2021年8月25日～2024年8月24日）の予定です。

2019年度の「長編映画の実地研修」にて完成した池田暁監督『きまじめ楽隊のぼんやり戦争』はビターズ・エンド配給のもと、3月26日より全国公開され、海外映画祭からのオファーも多く、国内外より高い評価を得ました。同プロジェクトの2020年度完成作品、和島香太郎監督『梅切らぬバカ』はハピネットファントム・スタジオ配給で11月12日に全国公開され、動員11万人、興行収入1.48億円を超える大ヒットとなっただけでなく、観客からの高い評価を得て東京新聞映画賞を受賞しました。

本事業出身監督 73 名のうち 30 名が商業長編映画監督デビューを果たしており、2 作目以降に挑む監督も増加しております。なかでも 2009 年度参加の岨手由貴子監督は『あのこは貴族』で第 13 回 TAMA 映画賞 最優秀作品賞を受賞し、2011 年度参加の中江和仁監督による劇場版『きのう何食べた?』は興行収入 13 億円を超える大ヒットを記録するなど、確固たる実績を残しました。第 24 回上海国際映画祭には本事業出身監督作 5 作品が出品されるなど、国内外にて評価を得る監督が増え、今後も活躍が期待されます。

《2021 年度 ndjc 出身監督 商業長編映画監督作品》

堀江貴大監督 (ndjc2015)

『先生、私の隣に座っていただけませんか?』(21 年 9 月公開)

金井純一監督 (ndjc2009)

『マイ・ダディ』(21 年 9 月公開)

中江和仁監督 (ndjc2011)

劇場版『きのう何食べた?』(21 年 11 月公開)

和島香太郎監督 (ndjc2008)

『梅切らぬバカ』(21 年 11 月公開)

*ndjc2020 「長編映画の実地研修」完成作品

ふくだももこ監督 (ndjc2015)

『ずっと独身でいるつもり?』(21 年 11 月公開)

松永大司監督 (ndjc2010)

『Pure Japanese』(22 年 1 月公開)

藤澤浩和監督 (ndjc2011)

『ツーアウトフルベース』(22 年 3 月公開)

② 令和 3 年度映画スタッフ育成事業

文化庁

将来の映画スタッフを育成するため、映画制作の現場での職業体験を希望する学生をインターンとして適切な映画制作現場へ派遣する人材育成事業を受託して 4 年目となりました。コロナ禍ながらも開始直後の 4 月から制作現場・学生ともに希望が多く、新型コロナウィルス感染防止対策を講じている制作現場にて実習を実施しました。前半から実習が多く続き、予算上限に達したため、残念ながら 9 月 2 日には新規作品募集は終了(学生の受け入れマッチングは冬まで)。20 校 49 名の学生が 21 作品(制作会社 13 社)にて計 1128 日間実習を行いました。事務局経費等の削減に努めた結果、予定日数 1050 日を大幅に上回り過去 4 年間での最多となりました。また、第

一線で活躍するプロを講師に迎えたオンラインセミナーを計 4 回実施、首都圏だけではなく全国の学生が参加しました。

過去 3 年の年間実績は、2018：19 校 49 名が 20 作品(16 社)、

2019：21 校 53 名が 18 作品(14 社)、2020：18 校 41 名が 12 作品(9 社)。

③ 映画・映像人材育成事業 京都府

京都府からは、引き続き『京都映画企画市』を受託しました。

『京都映画企画市』は、時代劇・歴史劇映画の企画募集ですが、今年度はサポート支援業務の更なる推進として予算 50 万の増額がなされています。審査員に『HOKUSAI』の橋本一監督、大作から問題作まで幅広い作品を手掛ける湊谷恭史プロデューサー、13 回連続の掛尾良夫氏に依頼しました。

また SNS 活動も進め、映画企画の応募数は、54 企画と歴代 2 位となりました。

10 月 30 日には昨年に続きオンライン方式での企画相談会、11 月 7 日は、初のオンライン方式での企画コンテストを実施、京都ヒストリカ国際映画祭が 1 月に延期となった為、22 日のオープニングセレモニーに金子監督に登壇いただき、新イベント「夜のヒストリカ」にも参加してもらいました。1 月 23 日には、京都文化博物館映像ホールで『水虎』の完成披露上映会を実施しました。

支援業務の新たな取り組みとして、歴代優秀映画企画パイロット版の YouTube 公開を実施、VIP0 の他の人材育成事業と連携し、『水虎』の金子雅和監督の海外映画祭マーケット等への出品、研修活動を行いました。

その実績として下記の通り、

- ・「プチョン国際ファンタスティック映画祭」の企画マーケットである第 14 回 NAFF It Project にて Mocha Chai Award を受賞。
 - ・第 34 回東京国際映画祭「Amazon Prime Video テイクワン賞」部門のファイナリスト作品に選出。
 - ・第 4 回福爾摩沙国際映画賞(台湾)で最優秀撮影賞を受賞。
- 国内外の映画祭で受賞選出され、長編化に向けて前進しています。

④ 令和 3 年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 キュレーター等海外派遣プログラム

公益財団法人画像情報教育振興協会

本プログラムを通じて、メディア芸術をサイエンス、教育、ビジネス等の領域にもまたがって思考し、既存の概念にとらわれず、新しい文化、新しい枠組みを作り出せる次世代のキュレーターや文化プロデューサーとして

幅広く活躍する人材の育成を目指します。

本年度は、アルスエレクトロニカ（オーストリア・リンツ市）のヴィジョン・哲学・実践を学べる実地研修プログラムを実施。世界最大のメディアアートフェスティバルである「アルスエレクトロニカ・フェスティバル」の運営のほか、教育、研究、コンペティション等、アルスエレクトロニカにおいて行われている幅広い領域の業務を体験し、知識やスキルを学ぶプログラムです。

■採択者派遣

- ・今年度採択者：蒔野真彩（東京大学大学院在学中）
- ・5月～10月 渡航・研修（期間中にアドバイザーとの面談やレポート提出があり、オンラインで公開）
- ・3月 成果発表会

■来年度採択者募集・決定

- ・スケジュール
 - 10月 選考委員会選定、募集要項、審査要項作成
 - 11月 募集開始
 - 1月 選考（1次：書類、2次：面接、最終：研修先による面接）
 - 2月 採択者決定、オリエンテーション
 - 3月 渡航に向けての準備、アドバイザー選定
- ・選考委員会：有識者 6名を選出
- ・来年度採択者：鹿又亘平（ロンドン芸術大学修士課程卒業後、日本でアーティストインレジデンスを立上げ、5年間運営。また、東京工業大学とロンドン芸術大学の共同プロジェクトにアシスタントディレクターとして参加し、アート思考とサイエンス思考の研究を行っている）

⑤ 令和3年度 コンテンツ海外展開促進事業（映像制作現場における効果的な人材育成の実証に関する調査） 経済産業省

業界歴3年以内 or 従事した商業作品（自主制作・短編・MV・CM類除く）3作品以下の若手スタッフを、劇場公開・ネット配信・地上波における長編・ドラマ・アニメ等商業作品の映像撮影現場にてOJT=プラクティカルトレーニングを行う事業。

制作会社へは指導料金を支払い、劇場公開作品、BS&地上波連ドラ等3作品で10人、一人当たり20～50日のトレーニングを実施しました。

また、複数の映画・映像・アニメ制作会社、映像系教育機関へ若手人材育

成についてヒアリングを行いました。今年度の「実証調査」として評価されれば、次年度以降は本格事業となる予定。

【(1) 人材育成事業及び(2) 内外の市場整備事業 にまたがる事業】

⑥ 令和3年度日本映画海外展開強化事業 文化庁

世界水準の映画制作の推進および日本映画の海外展開の強化を目的とした事業です。アメリカ合衆国・ニューヨークにて現地パートナーであるジャパン・ソサエティーと共に日本映画の特集上映をオンラインと対面上映のハイブリッド形式にて実施しました。フランス・カンヌ国際映画祭期間中およびドイツ・ベルリン国際映画祭期間中には、特にクラシック作品の「キュレーション・マッチング」業務としてウェブサイトのアップデートや海外シネマテーク担当者へのヒアリング等を行いました。また日本の映画人材の欧米におけるネットワークの構築、制作能力向上のため、現地映画関係者／映画教育機関と連携して効果的な短期実践研修をオンラインにて実施。ニューヨークでの一般劇場での日本映画上映会も現地映画館にて対面上映会として実施しました。

(2) 内外の市場整備事業

① 令和3年度コンテンツ海外展開促進事業（コンテンツ関連ビジネスマッチング事業） 経済産業省

日本コンテンツの国際取引活性化や新市場創出に資する、1. 新人・若手クリエイターが活躍できる機会を創出するビジネスマッチングモデルの確立、2. 先進技術を活用し新たな連携が行えるビジネスマッチングモデルの確立、3. 新興マーケットへ安心して進出できるビジネスマッチングモデルの確立を目的とした、コンテンツ国際ビジネスマッチングイベントを引き続き開催しました。

事業全体の枠組み



I. コンテンツ国際ビジネスマッチングの実施

- 1) 「Berlinale Co-Production Market Visitors Programme」に参加した若手プロデューサー渡邊一孝氏によるトークセッション(2021年4月27日、オンラインにて開催)
映画プロデューサー渡邊一孝氏によるトークセッション「国際共同製作における企画発案から完成まで」(無料)を開催しました。セミナーには、渡邊氏のほか、渡邊氏の最新プロデュース作品『海辺の彼女たち』(2020/日越共同製作)の監督である藤元明緒氏、ベトナム側共同プロデューサーのジョシュ・レヴィ氏とヌエン・ル・ハン氏が登壇。日米で活躍する映画プロデューサーのエリック・ニアリ氏によるモデレーションのもと、新作の企画開発から映画完成までの道のりを語っていただきました。国際共同製作を目指すプロデューサーなど81名に参加いただきました。
- 2) 「アヌシー国際アニメーション映画祭 MIFA Japan Pavilion 出展」(6月15日~18日、オンライン開催)
新型コロナウィルスの影響で今年もオンライン開催となった、世界最大のアニメーション映画祭、アヌシー国際アニメーション映画祭併設マーケットMIFAにてJapan Pavilionを出展。Japan Pavilionのトップページに、宣伝用のPavilion紹介ムービーを掲載したほか、各企業のページには、トレーラー等の動画を掲載。7社が参加し、37件の

商談を実施しました。参加各社の企業ページには、それぞれ約 30~60 件のビュー数がありました。

3) 長信传媒 (G.H.Y Culture & Media) ビジネスマッチング (6月 21 日、24 日、オンライン開催)

Perfect World Pictures からスピンアウトした長信传媒 (G.H.Y Culture & Media) に日本の脚本家のオリジナル企画を売り込むビジネスマッチングを実施しました。参加した脚本家は 5 名。

Perfect World Pictures 脚本家ビジネスマッチング (10月 18 日、オンライン開催)

日本の脚本家が持つオリジナル企画を中国で映像化することを目指し、中国大手の映像制作会社である Perfect World Pictures のドラマ部門と日本の脚本家とのビジネスマッチングを実施しました。参加した脚本家は 4 名。現時点においても、話し合いが継続されています。

4) 「A-Japan」 (7月 9 日～7月 14 日、オンライン開催)

日本 IP を北米・海外のプロデューサーにセールスし、海外での TV シリーズ映像化・リメイク化を促進するため、ハリウッドを中心とする映像業界関係者に向けたピッチャイントを実施しました。参加 IP は、「アイアムアヒーロー」(Green Light)、「お義父さんと呼ばせて」(関西テレビ放送)、「戦国自衛隊」「不死の獵犬」(ともに KADOKAWA)、「イタズラな Kiss」(エムズプランニング) でした。ユニーク視聴回数は 501 回、累計視聴回数は、763 回でした。

5) プチョン国際ファンタスティック映画祭 企画ピッチ「NAFF It Project」「NAFF Fantastic Film School」(7月 8 日～15 日、オンライン開催)

アジア最大のジャンル映画祭であるプチョン国際ファンタスティック映画祭併設、「NAFF It Project」に、『水虎』(金子雅和監督、片山武志プロデューサー、福原まゆみプロデューサー)『Quantum Suicide』(今井太郎プロデューサー) の 2 企画が参加し、世界から招待された出資者、映画祭担当者、プロデューサーなどを相手にオンラインでピッチ (個別商談) を実施。計 56 件の商談を継続するという結果でした。また、『水虎』はポストプロダクションサポート部門にて Mocha Chai Award を受賞し、約 150 万円相当のポストプロダクションを行う権利

を獲得しました。

また、プロデューサー育成のプログラム、「NAFF Fantastic Film School」に、青山エイミー 氏（プロデューサー）が参加し、世界のマーケットで、主にジャンル映画の企画や作品を売るノウハウを得るために、ワークショップや業界エキスパートとのトークセッションなどに参加いたしました。

6) 崑崙ゲーム化 IP ビジネスマッチング（7月 26 日、27 日、29 日、オンライン開催）

『BLEACH Soul Rising』など人気ゲームを制作、配信する北京乐享方舟游戏科技有限公司（GameArk）にゲーム化 IP を売り込むビジネスマッチングを実施しました。選考を通過して、ビジネスマッチングに進んだのは 3 社。現在も引き続き協議が続いています。

7) 「ChinaJoy 2021 日本館バーチャル出展」（7月 30 日～8月 1 日、オンライン開催）

上海で開催された「ChinaJoy 2021」のビジネスデーにおいて日本館として現地で出展し、ゲーム関連作品・IP の紹介を行いました。日本の出展企業は現地では参加せず各社の作品展示、紹介のみでしたが、展示会後の詳細ミーティングなどについては、日本企業サポート事務局が、オンラインにて対応し、出展した日本のアニメ・ミーティングサポートやバイヤー紹介など、成約に向けたフォローアップを行いました。

出展企業数は 14 社、日本館訪問者数は、合計約 1000 名（うちバイヤー約 300 名）となっており、コロナ禍下での入場制限の発令にも拘わらず、多くの来場者が訪れました。

また、フォローアップの一環として 10 月 1 日～3 日に成都で開催された「AIG 国際アニメ・漫画・ゲーム&デジタルコンテンツ産業博覧会」へも同様に 14 社の方々が参加しました。

8) 韓国映像化 IP ビジネスマッチング（10月 25 日、26 日、27 日、29 日、11 月 10 日、オンライン開催）

韓国の映像制作会社 3 社に対し、日本の小説・コミックなどの映像化の原作及び映画やドラマのリメイク権などを売り込むビジネスマッチングを実施しました。日本からは出版社・テレビ局など 11 社が参加しました。韓国の B.A.エンタテインメントと日本のヒーローズの間でコ

ミックの実写映像化のオプション契約が締結されました。

- 9) 「釜山国際映画祭 APM (Asian Project Market)」& 「E-IP Market 出展とピッチ」(10月11日～14日、オンライン開催)
釜山国際映画祭併設の企画マーケット「Asian Contents & Film Market」にVIPO ブースを出展し、実写企画の4社5企画を紹介。4社は4日間で計36件の商談を実施しました。
また、同時開催の「E-IP マーケット」にて、映像化を目指す出版物（書籍／電子書籍／脚本等も可）のプロモーションのため、7社が参加。昨年同様、ACFMとパートナーシップを結び、Japan delegationとして参加しました。7社は4日間で計83件の商談を行いました。
- 10) JMAP (Japanese Movie & Animation Pitching) ピッチトレーニング & TIFFCOM オンラインピッチング (11月1日～3日、オンライン開催。トレーニングは8月～9月)
TIFFCOMにおいて、実写、アニメーションのジャンルで国際共同製作を目指すプロデューサーや監督によるオンラインのピッチセッションを実施。各ピッチには、海外の業界のプロフェッショナルがフィードバックを寄せました。実写映画の企画を持つ参加者4名、アニメーション4名に対し、事前に全5回のピッチトレーニングを実施しました（トレーニングにはE-IP Market参加者1名も参加）。
- 11) TIMM 連携企画 GMS (Guild of Music Supervisors) セミナー第2弾「映画・ドラマ、その他新しいメディアにおける音楽のシンクビジネスチャンスと最新事情」(11月1日～3日、オンライン開催)
2020年度実施の米国GMS (Guild of Music Supervisors) の音楽海外シンクビジネスセミナーの第2弾として、日本音楽産業・文化振興財団(JMCE)との共催で実施。米国でシンクビジネスに携わる4名、ジョナサン・マクヒュー氏、シーズン・ケント氏、グウェン・ライリー氏、アニタ・ネデリコヴィッチ氏が、担当分野のミュージックスーパー・バイジングについて語りました。視聴数は250回でした。
- 12) 「Rotterdam Lab 2022 若手映画プロデューサー参加支援」(2022年1月24日～2月2日、オンライン開催)
「ロッテルダム国際映画祭」の企画マーケット(CineMart)の一部として実施されているプロデューサー育成プログラム「Rotterdam Lab」へ、

井手陽子氏(アスミック・エース)、戸田ひかる氏(Little Stranger Films)の2名の若手プロデューサーの参加を支援しました。全世界から73名のプロデューサーが参加。2名は、ピッチング、脚本開発、プロデュース、マーケティング、マネージメント、共同製作などについて学び、配給会社等との個別ミーティングも積極的に実施し、ネットワーキングを構築する場としても、非常に有意義な機会となりました。

13) ベルリン国際映画祭併設マーケット(2月12日～16日、オンライン開催)

国際共同製作のためのネットワーキングおよび企画をプレゼンテーションするためのプラットフォーム「Berlinale Co-Production Market」の体験版「Visitors Programme」に5名のプロデューサーが参加しました。参加者からは、オンライン上でも、活発な議論ができ、世界各国の映画人の意見が直接聞くことができ、とても有意義であったとの意見が多く挙げられ、満足度の高いイベントとなりました。

14) Books at Berlinale 参加支援(2月14日、15日、16日、オンライン開催)

ベルリン国際映画祭に併設されている Book to Film のマーケット「Books at Berlinale」への日本の出版社の参加促進を目的として3つの施策を実施。①各国の出版社・出版エージェントが実施するピッチの様子の視聴、②各国の映像制作会社等との 1on1 でのオンラインミーティングへの参加、③Books at Berlinale の代表 Henning Adam 氏による日本の出版社向け説明会を実施しました。②の 1on1 でのオンラインミーティングには徳間書店が参加し、まだやり取りが継続中となっています。

15) Kidscreen Summit Virtual 2022 Japan Pavilion 出展(3月7日～11日、オンライン開催)

北米最大のキッズエンターテインメント産業見本市である Kidscreen Summit Virtual において、Japan Pavilion を出展。今年は4度目の出展となり、日本の子ども・ティーン向けコンテンツ企業に海外マーケットへコンテンツを展開するための商談機会を提供しました。Japan Pavilion へは日本企業9社が参加しました。

16) 「Asian Animation Summit (AAS) 企画ピッチ」(3月8日～11日、

オンライン開催)

今回、アジアで最も本格的なアニメーションのピッチイベントが、**Kidscreen Summit Virtual** の一環としてオンライン開催になりました。日本から共同製作や出資のパートナー探しに積極的なプロデューサーがピッチを行いました。応募 6 社の中から選考された 2 社（ニューディア、ABC アニメーション）が、イベント専属メンターによる 5 回のピッチメンタリングを受けた後、1 企画 4 分のオンラインピッチを行いました。2 企画の商談数は 14 件でした。

17) 「日中韓文化コンテンツ産業フォーラム」(9月 28 日課長級会議、10 月 27 日日本会議、オンライン開催)

日本・中国・韓国におけるコンテンツ産業政策、動向に関する継続的な会議を実施しました。三カ国のコンテンツ産業担当政府、政府系機関、学術機関及び産業界の関係者が参加しました。(本年度の主催国：中国)
第 1 部は政府間会議、第 2 部は日中韓デジタルコンテンツ文化企業交流会が実施され、活発な意見交換が行われました。

18) 「Asia Content Business Summit (ACBS)」(オンライン開催)

アジアにおけるコンテンツ産業の官民関係者を一堂に集め、アジア市場におけるコンテンツ流通の促進、海賊版対策、人材交流、国際共同製作等について議論することを目的とした国際会議。主要メンバー国・地域は、日本・中国・香港・タイ・インドネシア・マレーシア・フィリピン・シンガポール。

12月 10 日には、「バンコク ASEAN 映画祭」と連動し、プレゼンテーションやパネルディスカッションを実施しました（テーマ：Going Virtual）。3月 15 日には、香港フィルマートにて、「A New Era of Asia Co-production」をテーマにアジア各国のプレゼンターによる発表がありました。日本からは、VIPO の楳田寿文、映画「海辺の彼女たち」のプロデューサーである渡邊一孝氏が登壇しました。

・ 「TPPF 合同会議」(5月 24 日、オンライン開催)

TIFFCOM 期間中に開催される 3 つの企画マーケット (JMAP、TGFM、マスタークラス) の情報共有と連携を図るため、関係団体での会議を実施しました。

参加者：経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課

総務省 情報流通行政局 コンテンツ振興課
 公益財団法人ユニジャパン
 映像産業振興機構(VIPO)

Gap Finance を含むビジネスマッチングの取り組みや、場としてのTIFFCOM、放送業界におけるマッチングや総務省の取り組みなどを横ぐしで連携し、マッチング事業で得られた知見を共有、全体をアップデートする事を目的に、各団体より進捗報告が行われました。

【ビジネスマッチング実施スケジュール】

No	事業名	2021												2022		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
1	【BCPMフォローアップ】「国際共同製作における企画発案から完成まで」トークセッション	準備 実施済														
2	アヌシー国際アニメーション映画祭MIFA Japan Pavilion出展	準備	実施済													
3	Perfect World Picturesビジネスマッチング（長信とのビジネスマッチングも含む）	準備	実施済			準備	実施済									
4	A-Japan ビジネスマッチング	準備		実施済												
5	ブヨン国際ファンタスティック映画祭 企画ピッチ「NAFF It Project」「NAFF Fantastic Film School」	準備		実施済												
6	鹿鳴ゲーム化IPビジネスマッチング		準備	実施済												
7	ChinaJoy ビジネスマッチング		準備	実施済												
8	韓国映像化IPビジネスマッチング				準備	実施済										
9	釜山国際映画祭 APM (Asian Project Market) & E-IP Market 出展&ピッチ				準備	実施済										
10	JMAP (TIFFCOM企画ピッチ) & TIMM企画					準備	実施済									
11	GMS TIMMセミナー					準備	実施済									
12	ロッテルダム国際映画祭 Rotterdam Lab 企画マーケット ピッチ						準備	実施済								
13	ベルリン国際映画祭 EFM 企画マーケット ビジネスマッチング							準備	実施済							
14	Books at Berlinale参加支援								準備	実施済						
15	kidscreen summit 出展									準備	実施済					
16	AAS 企画ピッチ									準備	実施済					
17	日中韓文化コンテンツ産業フォーラム（本会合）					準備	実施済				準備	実施済				
18	ACBS (ASIA CONTENT BUSINESS SUMMIT)						準備	実施済		準備	実施済	準備	実施済			

II. ビジネスマッチング運営会議の実施

1) 「コ・フェスタ 2021 実行委員会」(7月9日、ハイブリッド開催)

コンテンツ業界団体、関係省庁、政府機関、関係自治体の代表及びコンテンツ関連イベント主催者の代表で組織をし、各イベントの内容紹介、今年度の事業内容について説明を行い、イベント間の連携と情報共有を図りました。新型コロナウィルス感染防止対策の為、随行者の方には極力配信による視聴をしていただきました。

場所：野村カンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

出席者総数：36名 内訳：委員-17名（代理 7名、兼任 1名含む）、委員同伴者-11名、幹事代理 1名、イベント関係者-7名

オンラインオブザーバー：18名 内訳：委員関係者9名、イベント関係者9名

- 2) 「第1回ビジネスマッチング運営会議」(6月25日、オンライン開催)

参加者：経済産業省コンテンツ産業課

映像産業振興機構（VIPO）

公益財団法人ユニジャパン

一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）

一般財団法人デジタルコンテンツ協会（DCAJ）

一般社団法人日本動画協会（AJA）

コロナ禍において、各イベントの進捗状況説明及び開催形式（リアルorバーチャル）の方向性について、各担当者（公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）、一般財団法人デジタルコンテンツ協会（DCAJ）、一般社団法人日本動画協会（AJA））より、説明がされました。

VIPOが実施したマッチング事業/イベントに関して、オンライン開催実施済みの事業についての報告をしました。

経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課ご担当者より、「Anime Japanにおけるオンライン商談会の実証実験」の結果について共有されました。

また、各イベント間の連携について、今後可能性を見出していくことで意見が一致しました。

- 3) 「第2回ビジネスマッチング運営会議」(9月27日、オンライン開催)

参加者：経済産業省コンテンツ産業課

映像産業振興機構（VIPO）

公益財団法人ユニジャパン

一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）

一般財団法人デジタルコンテンツ協会（DCAJ）

一般社団法人日本動画協会（AJA）

各イベント担当者（公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）、一般財団法人デジタルコンテンツ協

会 (DCAJ)、一般社団法人日本動画協会 (AJA)) より、コロナ禍のイベントの進捗状況、開催形態の報告、また、VIPO が実施した各ビジネスマッチング事業の実施及び進行中の報告がされました。

各イベントの課題について共有と意見交換がされ、その上で、DCEXPO の TechBiz 参加企業様と、IP ホールダーとのマッチングを進めることで一致しました。

各イベントが行った参加事業者向け、定性アンケートの結果が報告されました。

- 4) 「第 3 回ビジネスマッチング運営会議」(12 月 22 日、オンライン開催)

参加者：経済産業省コンテンツ産業課

映像産業振興機構 (VIPO)

公益財団法人ユニジャパン

一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)

一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)

一般社団法人日本動画協会 (AJA)

各イベント担当者（公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)、一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)、一般社団法人日本動画協会 (AJA)）より、各イベントの結果（内容、成果目標等）が報告されました。よかつた点、改善すべき点も共有され、意見交換を行いました。

また、今年度、各イベント間の連携を強化してきた成果として、DCEXPO の TechBiz 事業者が、ビジネスマッチング事業に参加した事例等が報告されました。

- 5) 「第 4 回ビジネスマッチング運営会議」(3 月 4 日、オンライン開催)

参加者：経済産業省コンテンツ産業課

映像産業振興機構 (VIPO)

公益財団法人ユニジャパン

一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団 (JMCE)

一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)

一般社団法人日本動画協会 (AJA)

各イベント担当者（公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人日本音

楽産業・文化振興財団（JMCE）、一般財団法人デジタルコンテンツ協会（DCAJ）、一般社団法人日本動画協会（AJA）より、各イベントの最終結果が共有されました。

また、各イベントの過去3年間の成果が報告され、今後はコロナ禍に学んだオンラインのメリットを活かしながら、リアルとのハイブリッド開催を目指していくべき、と意見がまとまりました。

- ② マンガ家を含めたクリエイター志望者支援事業 （京まふ2021） 京都市
今年度より京都市から『マンガ家を含めたクリエイター志望者支援事業』を受託して「京都国際マンガ・アニメ大賞2021」と「マンガ出張編集部」&「マンガ道場」を実施しました。「京都国際マンガ・アニメ大賞2021」は昨年度からCGアニメコンテストが加わり、マンガ、イラスト、アニメーションの三コンテスト体制となりましたが、応募総数は最多の2,632作品、97ヶ国/地域からの応募がありました。新型コロナウィルス感染防止対策を考え、「マンガ出張編集部」&「マンガ道場」は、昨年に続き会場を京都国際マンガミュージアムに移し、10月9日・10日、11月13日・14日の四日間開催予定。10月8日には「京都国際マンガ・アニメ大賞2021」の表彰式を京都市役所にて実施しました。本年度の大賞受賞者は、CGアニメコンテスト史上初の全審査員が満点の『高野交差点』の伊藤瑞希氏、準優秀賞の『アノナツココナツ』の多田文彦氏と京都府出身者のダブル受賞となり、新聞でも大きく取り上げられ話題を集めました。
各コンテストの応募作品のレベルが上がっているとの報告も受けており、育成支援事業として着実に機能してきております。

- ③ 令和2年度コンテンツグローバル需要創出促進・基盤強化事業費補助金

経済産業省 54.5億円

令和2年度補正予算による「コンテンツグローバル需要創出促進・基盤強化事業費補助金（J-LOD）」の募集の一部を令和3年3月31日より開始しております。今年度は、1)コンテンツ等の海外展開を行う際のローカライズ及びプロモーションを行う事業、2)海外向けコンテンツ製作に資する資金調達・人材育成を行う事業、3)先進技術を活用した公演の収益の多様化・強靭化を行う事業、4)コンテンツのサプライチェーンの生産性向上に資するシステム開発・実証を行う事業、5)デジタル配信を念頭においたストーリー性のある映像の制作・発信を行う事業の5種類の補助金となっております。事業の略称：「J-LOD」（読み：ジェイロッド、LOD意味：Localization & Distribution）。

- 1)の補助金は、169件が採択され、確定検査は全件終了しております。
- 2)の補助金は、23件が採択され、確定検査は全件終了しております。
- 3)の補助金は、17件が採択され、確定検査は全件終了しております。
- 4)の補助金は、13件が採択され、確定検査は全件終了しております。
- 5)の補助金は、46件が採択され、確定検査は全件終了しております。

展示会やイベント等、昨年よりもリアル開催が増加しているものの、日本からの渡航が容易ではない状況のため、採択件数・金額とも昨年とほぼ横ばいで、1)～5)全体の予算消化率は、34%となりました。

④ コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金（J-LODlive）

経済産業省 878億円

令和2年度補正予算による「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金（J-LODlive）」の募集を令和2年5月27日より開始しました。今般の新型コロナウィルス感染症のまん延の影響を踏まえ、これにより公演を延期・中止した主催事業者に対して、今後実施するライブ公演の開催及びその収録映像を活用した動画の制作・配信の費用の一部を補助するものです。事業の実施期間は、予算の繰越しに伴い延長され、令和4年3月31日までとなっております。令和3年3月26日をもって、予算消化率100%を達成し、23,713件採択されております。その後事故繰越を行い、補助金支払期限が令和4年7月29日まで延長されております。現在確定検査を実施中で、3月31日時点で、確定検査が終了している案件は20,912件となっております。また、令和3年2月22日よりキャンセル料に関する支援を開始し、110件採択され、全件確定検査が終了しております。

⑤ 「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金」（三次補正）(J-

LODlive2) 経済産業省 715億円+追加 627億円

令和2年度三次補正予算による「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金（J-LODlive2）」の募集を令和3年4月7日より開始しました。今般の新型コロナウィルス感染症のまん延の影響を踏まえ、これにより公演を延期・中止した主催事業者に対して、今後実施するライブ公演の開催及びその収録映像を活用した動画の制作・配信の費用の一部を補助するものです。事業の実施期間は、令和4年3月31日までとなっておりましたが、事故繰越を行い、補助金支払期限が令和4年11月30日まで延長されております。令和4年1月7日に応募を締切、18,780件採択されております。現在確定検査を実施中で、3月31日時点で、確定検査が終了している案件は7,788件となっております。また、令和3年2月22日よりキャンセ

ル料に関する支援を開始し、3,945 件採択され、3月31日時点で、3,778 件確定検査が終了しております。

⑥ コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金(J-LODr3)

経済産業省 556.5 億円

I. J-LOD (1) 海外向けのローカライズ&プロモーションを行う事業の支援
コンテンツが主体となった海外展開を行う際のローカライズおよびプロモーションを行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

3月24日（木）より公募を開始いたしました。

II. J-LOD (2) 海外からの資金調達等のためのピッチングを行う事業の支援
海外展開を目指すコンテンツの本格的な製作に必要な資金調達、ライセンス販売やパートナー獲得のためのピッチ映像の制作等を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

3月24日（木）より公募を開始いたしました。

III. J-LOD (3) with コロナ時代におけるエンタメビジネスを行う事業の支援

収益チャネルの多様化や顧客体験の向上によって、新たな顧客や、事業機会の確保、収益の多様化・強靭化を行う、日本発コンテンツを活用したイベントの実施による新たなビジネスモデルへの転換を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。また、緊急事態宣言等によるイベント開催制限等の影響によって、イベント等を中止せざるを得ない場合、開催等を延期・中止した公演、展示会、遊園地・テーマパークのキャンセル費用および関連する海外向けプロモーション動画の製作・配信を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

3月28日（月）より公募を開始いたしました。

IV. J-LOD (4) コンテンツ業界のDXに資するシステムの開発・実証を行う事業の支援

コンテンツ製作・流通工程の効率化に資するシステムの開発・実証を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

3月17日（木）より公募を開始いたしました。

V. J-LOD（5）ストーリー性のある映像制作・発信を行う事業の支援
デジタル配信を念頭においたストーリー性のある映像の制作・発信を行う事業に係る費用について、その費用負担を軽減するため、当該事業を主体となって実施する企業・団体に必要経費の一部を補助します。

3月17日（木）より公募を開始いたしました。

⑦ コンテンツ活用促進事業 東京都

令和3年度予算における当該事業の事務局を受託しております。この事業では、都内コンテンツ企業と異業種企業（製造、医療・福祉、教育、商店街、小売等分野を軸に募集）のニーズを踏まえたセミナーを開催すると共に、相互の連携を促進するためのマッチング交流会を12月8日（水）、9日（木）の2日間、オンラインで開催致しました。

- 1)マッチングイベント （実施マッチング 180組以上）
- 2)セミナー 3本

を開催し、参加者の皆様により効率的な時間を過ごしていただきました。

今年度は114名の参加者を得て、その内訳は

コンテンツ企業 36社 55名
異業種企業 34社 47名
オブザーバー企業 8社 12名

となっております。

⑧ 令和3年度 メディア芸術海外展開事業 文化庁

文化庁が主催している『メディア芸術祭』の受賞作品・作家等を中心に海外で紹介・展示・プロモーションする事業です。

例年、アヌシー国際アニメーション映画祭（フランス）、アルスエレクトロニカ（オーストリア）、マンガバルセロナ（スペイン）にて展示・パフォーマンス・トークイベント等を実施し、また、10ヵ所程度の海外のフェスティバルでの上映を行っていましたが、昨年に引き続き、今年も全てオンラインでの実施となりました。

6月のアヌシーでは、東京藝術大学副学長の岡本美津子先生を企画ディレクターに迎え、「Expanded Animation」（拡張するアニメーション）というテーマの下、映画祭併設見本市である「MIFA (Marché international du film d' animation)」にオンライン出展し、パネルディスカッション、ワークショップ、短編アニメーションのスクリーニングなどの公式プログラ

ムを実施しました。また映画祭の会期（6月15日～18日）にあわせ、アニメーション部門特設サイトを開設し、受賞作品のご紹介や受賞者を招いたトークセッションを開催しました。

9月のアルスエレクトロニカ・フェスティバルもオンライン中心の実施となりました。ソニーグループ株式会社の戸村朝子氏を企画ディレクターに迎え、「The Power of the Unseen」（目に見えぬ力）というテーマの下、フェスティバルとの連携特設サイト「アルスエレクトロニカ Garden TOKYO」を開設。文化庁メディア芸術祭受賞作品の展示をはじめ、メディア芸術祭と「プリ・アルスエレクトロニカ 2021」のダブル受賞を果たしたアーティスト、evala（エバラ）によるライブ・パフォーマンスやトークセッションを実施し、オンラインで生配信を行いました。また、一部の作品・企画はアルスエレクトロニカの会場にて展示を行いました。

10月29日～11月1日にはマンガバルセロナとの連携企画を実施しました。バルセロナ在住の日本マンガ研究家・翻訳家であるマルク・ベルナベ氏を企画ディレクターに迎え、「Manga, Ties and Bonds」（マンガ 縁と絆）をテーマに、特設サイトでの展示とオンラインイベントを行いました。特集展示は昨年度のメディア芸術祭マンガ部門大賞を受賞した「3月のライオン」（羽海野チカ）、また、メディア芸術祭受賞作品の中から企画テーマに沿った6作品を紹介。さらにオンラインイベントとして、マンガ家によるトークセッションやスペインのマンガ専門家による座談会など、生配信を含む3つのプログラムを配信しました。

また、フェスティバル参加に加えて、短編アニメーションを中心としたアニメーションのキュレーションプログラムを3本制作し、海外の8つの映画祭（オンライン上映含む）にて上映を致しました。

- ⑨ アーカイブ中核拠点形成モデル事業 文化庁
4年目となる、映画関連の非フィルム資料のアーカイブに係る中核拠点形成（京都）のための調査研究等、事業を受託しました。
今年度の調査研究業務は、東京調布地区の二次調査として、昨年からの調布市立図書館に、新たに東京現像所、東映ラボ・テック、高津装飾美術、鎌倉地区の川喜多映画文化財団と進め、また地域を九州・中国地区に拡げ、11月には松永文庫、田中絹代ぶんか館、木暮実千代顕彰館の調査を実施しました。

「映画資料所在地情報検索システム（略称：JFR）」は、本年度は新たに川

喜多映画文化財団のデータベースとの接続が完了し、デジタルアーカイブ実証研究を実施しました。

2月26日～3月6日の調布シネマフェスティバル開催期間に、昨年は中止となった「調布地区で発見された映画資料で見る映画のスタッフワーク」と題した映画資料調査の実証展示、また、3月2日～3月31日の期間で東映太秦映画村の「め組の家」から発見された未整理台本を「映画資料特別展」として映画資料調査の実証展示を開催しました。

1月20日には、「全国映画資料アーカイブサミット2022」を5部構成のプログラムでオンライン開催しました。昨年を上回る参加数を記録しております。

- ⑩ 全国ロケーションデータベースの利用促進のための調査 文化庁
全国のフィルムコミッショングループ(FC)が保有している情報をネット上に集約し国内外に向けて情報提供を行う「全国ロケーションデータベース(JL-DB)」利用促進のための調査事業です。運営事務局をジャパン・フィルムコミッション(JFC)とコンソーシアムを組み双方のネットワークを活かした運営を行いました。
具体的には、昨年度全面改修した新JL-DBシステムの課題等について調査を実施し、追加修正を行いました。また、映像制作者の利便性をより高める目的で、新たにモバイルアプリを開発し、モバイルでの対応を実装しました。ロケ地データの拡充施策として、JFC会員向けにロケ地データの自動連携システムも順次進めています。いわき市で開催した「JFC アウオード」(7月)、加えて地域FCの受け入れ態勢強化の一環としてJFCが主催する、「JFC全国ロケ地フェア2021夏」(10月)、「JFC全国ロケ地フェア2022冬」(1～2月)、については昨年度に引き続き、サポートを行いました。
- ⑪ ARTS for the future! (コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業) 文化庁 (補助金総額: 250億円+追加180億円)
令和2年度第3次補正予算による「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」の補助金事務局業務を受託致しました。
新型コロナウィルスにより文化芸術活動の自粛を余儀なくされた文化芸術関係団体・文化施設による、公演等、展覧会等、映画製作について、活動の持続可能性の強化に資する積極的な活動を支援する補助金で、4～5月に1次募集、9月上旬に2次募集を実施し、下記の通り、合計11,200件の申請を受け付け、7,024団体を採択しております。

<1次募集>

- ・申請期間：4月26日～5月31日
- ・申請件数：5,368件
- ・採択件数：2,713件

<2次募集>

- ・申請期間：9月6日～9月13日
- ・申請件数：5,832件
- ・採択件数：4,311件

<最終審査結果>

- ・申請件数：11,200件
- ・採択件数：7,024件
- ・採択金額：403億円（補助金予算消化率 98.3%）

<実績報告確認状況（3/31時点）>

- ・事業中止件数：69件
- ・交付決定取消件数：1件（理由：実績報告未提出）
- ・実績報告提出件数：6,954件
- ・補助金額確定件数：6,954件
- ・実績報告確認残数：0件

⑫ コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業

文化庁（補助金総額：556億円）

令和3年度補正予算による「コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業」の事務局業務（2023年3月末まで）を受託致しました。

コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援のため、文化芸術関係団体が新型コロナウィルス感染症対策を十分に実施した上で、積極的に公演等を開催し、活動の充実・発展を図る取組を支援するため、以下の2つの補助金事業を実施することになっており、年度内に募集を開始しました。

I. ARTS for the future! 2

2月16日募集要項公開、3月28日募集開始
(予算消化までの間、随時募集)

II. 統括団体によるアートキャラバン

2月28日に募集案内公開とともに募集開始

(地域連携型は3月15日締切、大規模公演型は4月15日締切)

⑬ アフターコロナに向けた外国映像作品ロケーション誘致に関する実証調査(ロケ誘致2021) 内閣府

日本において製作・撮影される海外映像作品に対し、製作費用の一部を実費（インセンティブ）支援し、該当する作品をロケーション誘致することで、日本国内においてインセンティブが海外からの大型映像作品の撮影ロケーション誘致にどのような効果があるか、実際に海外から大型映像作品の撮影ロケーション誘致を行って成功事例を創出し、それによる地域経済の振興等への効果等を実証調査する事業を、昨年度から引き続き今秋に受託いたしました。

しかしながら、新型コロナ感染症の影響での、入出国管理の厳格化により、海外映像作品の誘致ができない状況が続いております。入出国が緩和となるよう知財事務局と調整を続けるとともに、事業実施が次年度繰越となり、支援対象となる作品の募集を次年度から再開する方向になりました。

⑭ 外国映像作品ロケーション誘致に係る経済効果フォローアップ検証調査 内閣府

平成30年2次補正予算に基づき実施された「地域経済の振興等に資する外国映像作品ロケーション誘致に関する実証調査で支援した海外映像2作品「唐人街探偵 東京MISSION」「G.I.ジョー:漆黒のスネークアイズ」が誘致・助成され、ロケ活動による経済効果が検証されたことを踏まえ、今後映像作品が配給・放映・配信されることに伴い、地方自治体などと連携し、映像作品の誘致・助成による観光・地域経済振興への効果を新たに検証しました。具体的には、関連する地方自治体などを通じ、ロケ実施地域における経済や雇用への波及効果を始めとした変化を調査し、ロケ地のその後の活動状況など、ロケ実施地域における2次的な経済効果を地方自治体や観光施設の協力の下で効果測定を実施しました。

⑮ 大型映像作品ロケーション誘致の効果検証調査 内閣府

令和2年度補正予算の繰り越し予算を使っての調査はアメリカの大型映像作品を採択し準備を進めましたが12月の新規入国禁止の政策によりキャスト・スタッフの渡航が不可能となりロケ中止となりました。その経緯を今後の参考とするべく報告書として作成し内閣府へ納品しました。誘致予算を活用し、日本のロケをアピールする動画を内外のクリエイターに撮つてもらいロケ誘致のプロモーション素材とします。

(3) 自主事業

① VIP0 アカデミー

2015 年 5 月に開設し、今年度は 7 年目を迎えました。

新型コロナウィルス感染拡大状況を鑑み、前期に引き続き全コース Zoom を活用してオンライン開催しました。

I. 春期（5 月～8 月）の実績（以下、参加者人数は、VIP0 スタッフ除く）

「コーポレートリーダーコース」参加者 8 名

「プロジェクトリーダーコース」参加者 10 名

「グローバルビジネスコース」参加者 4 名

II. 秋期（9 月～11 月）の実績

「コーポレートリーダーコース」参加者 12 名

「プロジェクトリーダーコース」参加者 13 名

「リーガル・エッセンシャルコース」参加者 10 名

「ファイナンス・エッセンシャルコース」参加者 7 名

「グローバルビジネスコース」参加者 3 名

III. 冬期（12 月～3 月）の実績

「業界研究ベーシックコース」参加者（一括）6 名

「リーガル・エッセンシャルコース」参加者 6 名

IV. インハウス研修その他

2019 年度より実施している城西国際大学セミナーをグローバル推進事業部と共に開催により実施（10 月 23 日／30 日）。

単発講座「チームマネジメント・スキルアップ講座」を開催（計 6 名参加）。

アスマック・エース様向けに 3/25（金）「若手向けビジネスプランニング講座」を実施。

V. 来年度への展望

開講より 7 年目に入り、受講者数も 700 名を超える（128 社 723 名受講：3 月 15 日現在）。

オンライン開催も 2 年が経過し、ノウハウも溜まつたことで更なるコース内容の充実を図ります。また、受講者のニーズに対応するために、

各コースの講義内容や講師の精査、企業へのヒアリングを実施して、それをもとに必要な変更、新規コースの増設を実施します。
派遣型の講座および短期講座においても、同様に会場、オンラインいずれの形でも開講可能となり、その開催も併せて推進することで、参加企業、参加者の増加及び事業採算の向上を目指します。

② セミナー・ワークショップ事業(有料)

■ 「中国ビジネス攻略セミナー：ビジネス編」(4月7日、オンライン開催)

講師：分部悠介氏 (IP FORWARD グループ総代表・CEO)

参加者：75名（一般34名、会員41名）

■ 「中国ビジネス攻略セミナー：法律編」(4月14日、オンライン開催)

講師：分部悠介氏 (IP FORWARD グループ総代表・CEO)

参加者：52名（一般27名、会員25名）

■ 「福井健策弁護士法律セミナー 近年の著作権改正とDX時代に向けた著作権」(5月27日、オンライン開催)

参加者：90名

■ 「エンタメマーケティング養成講座2021」(全4回6/7、14、21、28、オンライン開催)

参加者：各37名

メイン講師：鈴木貴歩氏 (ParadeALL(株))

6月7日「エンタメマーケティング概論2021と音楽マーケティングにおけるデザイン思考」

ゲスト講師：梶 望氏 ソニー・ミュージックレーベルズ 第三レベルグループEPIC レコードジャパン

6月14日「映画、映像領域のエンタメマーケティングとコミュニケーション戦略」

ゲスト講師：久保浩章氏 株式会社フラッグ 代表取締役

6月21日「日本のエンタメやカルチャーを世界に伝える海外PR」

ゲスト講師：J.C.Talk氏 JAPANESE CULTURE PR TEAM プロデューサー

- 6月28日「ソーシャル時代のエンターテインメント・プロデュース」
ゲスト講師：廣井紀彦氏 ALPHABOAT 合同会社 Entertainment Studio
Unit General Manager
- 「中国セミナー俳優編」（第1弾7月14日、第2弾7月21日、オンライン開催）
講師：松峰莉璃氏（女優・脚本家・演出家・プロデューサー）
参加者：104名（第1弾44名、第2弾60名）
- 「城西国際大学 エンタメ業界研究セミナー」（10月23日、30日、オンライン開催）
登壇企業：(株)フロンティアインターナショナル、(株)東京音響通信研究所、東宝芸能(株)、(株)スマイルカンパニー、verbal inc.、(株)クオラス、(株)ABCアニメーション、
助監督 烏井雄人氏
参加者：城西国際大学学生 各日約250名
- 「トゥルーノース」セミナー（10月28日、オンライン開催）
タイトル：「金なし、コネなし、経験なしの監督による世界で絶賛の国際共同製作映画！初監督作品で全国劇場公開、数々の国際映画祭で受賞の長編3Dアニメ映画『トゥルーノース』の話」
登壇者：清水ハン栄治監督
モデレーター：ジャーナリスト 数土直志氏
参加者：32名（当日参加：27名、アーカイブ視聴：5名）
- The 4th edition of script development & prescription conference
「脚本の翻案-オリジナルIPの利点と翻案で起こりうる失敗とは？」
(11月15日～18日セミナー、12月4日Q&Aセッション、オンライン開催)
主催：台湾TAICCA
講師：萩原崇氏（関西テレビプロデューサー）
(Q&Aセッション参加者数100名)
- 「映画プロデューサー養成講座 基礎編」（12月1日～3日、オンライン開催）
講師：安藤紘平氏（早稲田大学名誉教授）

ゲスト講師：石川 慶氏（映画監督）
参加者 20 名

- 海外音楽シンクビジネスセミナー法律編（12月8日、オンライン開催）
タイトル：「音楽シンクビジネス法律編：賢くグローバルに稼ぐための法律知識」
講師：Field-R 法律事務所 弁護士 山崎卓也氏
参加者：50名（当日参加：46名、アーカイブ視聴：4名）
- 「福井健策弁護士法律セミナー DX化と著作権の権利処理実務」（12月16日、オンライン開催）
講師：福井健策氏 弁護士（日本・ニューヨーク州）、日本大学藝術学部・神戸大学大学院客員教授
参加者：98名
- 「テレビドラマ制作セミナー～これからの日本のテレビドラマに必要なこと～」（1月13日、オンライン開催）
講師：水橋文美江氏（脚本家）
櫛山裕子氏（日本テレビ放送網株式会社 情報・制作局 ゼネラル・プロデューサー）
モデレーター：さらだたまこ氏（放送作家、劇作家、エッセイスト、ラジオパーソナリティー）
参加者 45名
- 海外見本市で役立つ英語ショートピッチトレーニングプログラム：実践的セールスコミュニケーション編（1月20日、27日、2月3日、オンライン開催）
講師：林 美千代氏、日本映像翻訳アカデミー（JVTA）
参加者：6名
- 「アクターズワークショップ」2月8日、15日（2日間、リアル開催）
講師：成島 出氏（映画監督、脚本家）
参加者 14名
- 「映画脚本読み込み講座」3月14日、15日（2日間、リアル開催）

講師：加藤正人氏（脚本家・日本シナリオ作家協会理事）
参加者 16 名

■ 「中国ビジネス攻略セミナー：ビジネス編」（3月 10 日、オンライン開催）

講師：分部悠介氏（IP FORWARD グループ総代表・CEO）
参加者：54 名（一般 31 名、会員 23 名）

■ 「中国ビジネス攻略セミナー：法律編」（3月 17 日、オンライン開催）

講師：分部悠介氏（IP FORWARD グループ総代表・CEO）
参加者：52 名（一般 31 名、会員 21 名）

（総参加人数：1345 名）

③ AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業

将来の映像産業を担うプロフェッショナルの発掘と育成を目指すと共に、日本の映画企画や若手クリエイターが世界に出ていく仕組みを構築する事を目的とし、AFI (American Film Institute) Conservatory へ留学を希望する日本人の推薦活動を運営しております。AFI Conservatory への入学が正式に決定した場合、“T.Y. 奨学金制度”が AFI Conservatory の判断により給付される可能性があります。

また、将来的には留学生、卒業生等の講演やワークショップを日本で実施するなど、AFI へ留学を希望する日本人の数および質の向上を目指しております。

- ・VIP0 内サイトにおいて募集告知及び会員を含め約 11,000 名に告知メール配信（8 月）。
- ・映像・演劇関連 2 サイトに告知投稿（8 月）。
- ・募集前後に本年度問い合わせ 3 件あり（2021 年 8 月、9 月）。
- ・締め切りは 10 月 15 日。本年度は応募が 2 件あり、うち 1 名を選出し、推薦状を送付したが、残念ながら合格には至りませんでした。

④ 交流促進事業

I. 海外の同様の機関等と交流の推進

本年は、新型コロナウィルスの影響もあって海外からの入国が難しく、例年実施している様々な海外の機関との交流を実施する事が出来ませんでした。

⑤ 情報サービス事業

I. Japan Creator Bank (略称 : JCB)

今年度は合計で約 140 件の問い合わせがありました。依然として国内からの問い合わせ（許諾、取材、仕事の依頼等）が多い状況ですが、海外からも“映画のプロデューサーを探している”“アニメの脚本家を探している”等の問い合わせがいくつか来ている状況です。

ビジネスマッチングに参加したクリエイター等の情報も随時 JCB に登録しました。

下期にサイトの SEO 対策を実施した結果、検索エンジンから自然流入してくるユーザーが増えました。

下期に登録されているクリエイター情報の更新作業及び新規クリエイターの登録作業を行いました。現在、約 800 名のクリエイターが JCB に登録されています。

II. Japan Content Catalog (略称 : JACC)

テレビ番組ジャンルの連携データベースを「FOYER TV for JACC」から「Japan Program Catalog」へ変更しました。

昨年度に引き続き、一部の連携データベースの中国語対応を実施しました。中国語対応を実施したのは、「SYNC MUSIC JAPAN DATABASE」「JL-DB」「Anime Chara DB」の 3 つのデータベースです。

下期にアクセス数向上のために Google 広告を実施しました。

III. Japan Book Bank (略称 : JBB)

サイトに登録されている出版物数が約 2,500 となり、大幅に増加しました。ID 登録者数も約 400 名となり、大幅に増加しています。

問い合わせもコンスタントに来ており、今まで合計 32 件（コミック：13 件、画集：12 件、児童書：2 件、実用書：2 件、ラノベ：1 件、文芸：2 件）の翻訳出版契約が成立しました。

ボローニャブックフェア、ロンドンブックフェア、香港ブックフェア、フランクフルトブックフェア、シャルジャブックフェア等に合わせてバナー広告、Google 広告、ブース出展等のプロモーションを実施し、効率的にサイトへアクセスを増やすことに成功しました。

IV. VIPO Integrated Support System (略称 : VISS)

北米のプラットフォームで配信されている日本の実写及びアニメ映画の

調査を実施しました。

⑥ フェスティバルスコープ事業

【内容】海外映画祭プログラマーへの日本映画 PR、紹介を目的として、ヨーロッパのプラットフォーム「Festival Scope Pro」への VIP0 特設ページ開設と日本映画 PR を行った。

【時期】年 2 回更新（カンヌ映画祭およびベルリン映画祭時期に実施）

【本数】年間 50 本までの日本映画を掲載

⑦ VIPOFilmLab 事業

I. 國際プロデューサー育成講座の実施

【開催時期】6 月～10 月（全 10 回）オンライン開催

【講師】長谷川敏行氏（SKIP シティ国際 D シネマ映画祭プログラミング・ディレクター）、Thomas Nam 氏（プチョン国際ファンタスティック映画祭マーケット部門責任者）、Christophe Bruncher 氏（eave）、Maria A. RUGGIER 氏（Asian Shadow 出資買付担当）、Clare Downs 氏（eave）、Sten Kristian Saluveer 氏（CEO, Storytek / Strategic Advisor NEXT, Marche Du Film - Festival de Cannes）、福間美由紀氏（分福プロデューサー）、Lorna Tee 氏（映画プロデューサー IFFAMacao. CinemAsia. paperheart）、Matthew Poon 氏（Asian Film Financing Forum HAF 担当者）、Park Seri 氏（Asian Project Market 担当者）

【参加者】東映、KADOKAWA、アスミック・エース、ロボット所属プロデューサーやフリーランスのプロデューサー等国際的プロデューサー志望者（21 名）

II. 脚本ラボ（脚本のリライトを前提とした個別指導講座）

2022 年 4 月イタリア・ウディネ映画祭期間中に EAVE が実施する講座と協力し、現地にて実施予定

⑧ IKURA 事業

I. 【事業内容】

映画監督による企画と映画プロデューサーを繋ぐマッチングサービスの運営。

II. 【事業目的】

双方の出会いを創出し、作家性を軸とした映画製作の機会を増やす。

III. 【実施事項】

- ▶マッチングの中心となる、ウェブサイトを構築しました。
IKURA 公式サイト》 <https://www.ikura-vipo.jp/>
- ▶2022年1月20日にサービスをローンチしました。
- ▶監督とプロデューサーによる対談を実施し、サイトに記事掲載しました。
- ▶事業宣伝（メディアへのリリース配信/チラシ制作/監督への登録アプローチ/プロデューサーへの連絡）を行いました。

IV. 【登録数】

登録企画：26 企画

登録監督：15 名

マッチング：1 件

本年度は事業ローンチに向けて、サービスの中心となるウェブサイトの構築をメインに行いました。登録監督に関しては、ndjc 出身監督から声がけし、次年度以降さらに対象を広げる予定です。またマッチング促進のためのイベント実施も今後検討しています。

(4) 組織運営

① 会員の状況

I. 新規入会

個人会員 0 名 法人会員 2 社 賛助会員 0 社

II. 退会

個人会員 1 名 法人会員 3 社 賛助会員 1 社

III. 現在の状況

・会員数：個人会員 3 名 法人会員 96 社 賛助会員 8 社

・会費及び入会金 入金額(予定含む) 49,320 千円(昨年比 140 千円増)

② 通常総会、理事会、幹事理事会

本年の通常総会、理事会、幹事理事会はいずれも新型コロナウィルス感染症への対応を考慮に入れ、実参加に加えオンラインでのご参加も可能とする方法にて開催致しました。

I. 通常総会

本年度は令和3年6月29日に通常総会を開催し、令和2年度の事業報告・会計報告、令和3年度の事業計画・予算・役員の選任等について決議をいただきました。

II. 臨時総会

令和3年8月12日に臨時総会を開催しました。本臨時総会において新たに日本レコード協会会長の村松 俊亮氏を新任理事として選任致しました。

III. 理事会

- ・令和3年6月10日に開催し、通常総会の審議事項について決議いただきました。
- ・令和3年7月29日に開催し、臨時総会の招集及び役員選任に係る臨時総会審議事項について決議いただきました。
- ・令和3年8月12日の臨時総会終了後に開催し、幹事理事の選任を行いました。
- ・令和3年12月3日に開催し、中間事業報告を行いました。

IV. 幹事理事会

- ・令和3年4月2日に開催し、令和2年度の事業報告(案)及び決算見通しの報告を行いました。
- ・令和3年6月10日に開催し、令和2年度の事業報告・会計報告を行いました。また、令和3年度の事業計画(案)・予算(案)について報告を行いました。
- ・令和3年12月3日に開催し、中間事業報告を行いました。

V. 会員交流会

例年、通常総会後に開催している会員交流会ですが、昨年に引き続き本年度は新型コロナウィルス感染症の状況を考慮に入れ、開催を断念致しました。

(5) 広報活動

① 「VIPO年間活動報告2020」の発行

「VIPO年間活動報告2020」(36ページ)を6月29日付にて発行し、会員及び役員に配布しました。事業・広報活動等において“対面”で説明する際に活用しております(※8ページ簡易版の冊子「VIPO事業紹介」は、昨年は使用機会が少なかったため作成見送り)。海外向けとしては、英語サイトの更新を隨時行うようにしています。

② ホームページの運営

ホームページにおいて、随時活動報告及びコンテンツ業界の情報を掲載いたしました。

2016年9月より開始したコンテンツ業界に関わる人やイベントをテーマにしたインタビュー企画では、以下を取り上げました。

■2021年6月

「米国で活躍する音楽プロデューサー備氏聞く！ 海外の映像作品で自分の楽曲が流れるために、今すべきこととは」

■2021年7月

国際共同製作における企画発案から完成まで——J-LOD 補助金（2）を活用した最新作を監督・共同プロデューサー陣と完成までの道のりを語る！（セミナーを一部抜粋・再構成）

■2021年8月

持続可能な日本アニメ産業の未来を創る——トムス・エンタインメント 竹崎社長が語る「アニメ SDGs」と「リーダーのあるべき姿」（VIPO アカデミー「コーポレートリーダーコース」講演より再構成）

■2021年9月

ndjc2017 出身監督 池田 晓監督が語る、若手映画作家育成プロジェクトがつないでくれた縁『きまじめ楽隊のぼんやり戦争』が生まれるまで

■2021年11月

今秋公開『梅切らぬバカ』の和島香太郎監督が「ndjc：若手映画作家育成プロジェクト」を通して学んだこと、得たもの

■2022年1月

内閣府に聞く——アフターコロナにおける「クールジャパンの再構築」とは

■2022年2月

エンタメに対する欲求は不変。時代に応じて素晴らしい作品を届けることしかない——ユニークな発想を生み続けるソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役社長 CEO 村松俊亮氏に聞く（VIPO アカデミー「コーポレートリーダーコース」講演より再構成）

③ VIPO会員とコンテンツ事業者へのメール配信

VIPOの活動報告を毎月定例で発信する「VIPOプレス」の発行と、会員各社の情報や事業活動などを不定期に発信する「VIPOニュース」を継続的

に発信しました。メールニュースの配信先数（コンテンツ事業者）は、約 10,000 件（2022 年 3 月 16 日現在）です。

④ 事業活動情報の記事露出

主にプレスリリース配信などを通し、プレスに対し事業活動の最新情報を定期的に発信することで、業界紙・誌を中心にパブリシティを獲得いたしました。

実施事業についての取材が少しずつ増えており、紙媒体では新規事業の「Japan Book Bank」や、「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」「ロケ誘致事業」等についての取材がありました。テレビ朝日からは世界の様々なランキングを紹介するバラエティ番組（特番）のエンタメネタとして、日本政府のコンテンツ業界向けの支援策（J-LOP～J-LOD）によってアニメの海外展開が伸びていることについて取材を受け、放映されました。また、メディア芸術海外展開事業「アルスエレクトロニカ」では、企画ディレクターの要請により、国内での認知度向上をめざして、日頃コンタクトのないアート・ロボット系のメディアへのアプローチを行い露出につなげました。

下期においては、昨年に続き朝日新聞から J-LODlive についてその後の状況について取材を受けました（昨年は 6 月に取材、7 月に掲載）。また、ndjc2021 の上映会には多くの記者に参加いただき記事を書いていただきました。

→昨年度は約 531 件（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）の記事掲載がありました。今年度は約 429 件（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 16 日時点）の記事掲載がありました。（※VIP0 名の記載がない記事は除く）

以上